

静岡市歴史文化施設基本構想案に対する市民意見 (意見個票)

No.1 70歳以上 男性

・タイトル

P.1 『静岡市歴史文化施設 基本構想 (案)』 「3、基本方針」の細目 (1) ~ (7)

・ご意見の内容

1. まず、平成 15 年 3 月策定の「静岡市総合歴史博物館基本構想」は、その後どうなったのか。

2. また、それと今回の基本構想とは、どう異なるのか。

3. 「総合歴史博物館構想」に比し、より規模の大きな施設と機能とを備えたものを想定していると解してもよいのか。 以下、別紙の通り

【別紙】

今回の「基本構想 (案)」を瞥見して感ずることは、現実的にみて果して実現可能な案なのかと、まず危惧の念を覚える。あまりに大風呂敷を広げ過ぎてはいないか、というのが率直な感想である。

3. 静岡市歴史文化施設の基本方針、の前文に続き、その細目の各末尾に、

(1) 本施設は、過去から現在に至る静岡市の風土・文化を体系的に展示し広く市民に紹介する拠点、・・・継続的に調査研究を進める学術研究の拠点

(2) 本施設は、・・・市内の文化財の情報提供を通じて歴史観光を促進し、さらに、研究や活用の成果を基に、新たな観光を創造し、観光産業の中核となる

(3) 本施設は、・・・産業、芸能や文化活動との積極的な交流を推進

(4) 本施設は、・・・歴史情報を提供することにより、市民の学習意欲を向上させ、さらに市民の自主的な学習を創出する生涯学習の拠点

(5) 本施設は、・・・児童・生徒が郷土静岡に対する愛着や理解を深めていく、郷土教育の拠点

(6) 本施設は、・・・積極的に本市の情報を発信していく歴史情報ネットワークを構築し、活用していくための拠点

(7) 本施設は・・・「市民との協働により施設の構想や計画を策定し」、市民の多様な要求に対応して進化していく施設

上記の如き「施設」となるには、広大な空間、人的要因、巨大な財政支出等を覚悟しなければならない。とりわけ重要なることは、専門知識を有する研究員、学芸員の配備である。まずその確保に早急に着手し、有能な人材を選任、委嘱することである。

実際にここを「拠点」に働くことになる人に、新施設建造前から、その建造につき計画

段階から従事させなければならない。「箱」だけ作って、その後でできた「箱」の範囲で仕事せよ、というのでは、必ず不備不足が多々出る。かかる施設だけでなく、要は「人」である。「人」を得なければ画餅に帰すこと必定である。当該施設の目的を十分理解した人物、しかも統率力、発信力、企画力にある人物をトップに据え、部下となる研究員、学芸員は今後 10 年、20 年、30 年と、当施設で仕事をして貰うのである。従って出来るだけ若い年齢層（理想的には本市出身者）の者を選任するのが望ましい。

次に危惧されることは、当該施設にはどれ程の財政支出を要するのか、ということである。この（案）からは全く分からないが、おそらく総費用の概算くらいは把握した上で立てられた「基本構想案」であろうと推測する。十分可能（建設・維持）との見通しのもとに立案されたのであれば、大いに結構なことと思う。

あとは、どれ程の財政支出を伴おうとも必ず実現させる、との強固な意志と不退転の覚悟である。この当事者は、市政のトップ、市長である。市長の見識がまずは要求される。この意味からも、新市長には文化行政、文化政策に一家言をもった人物が就任されることを切に望みたい。

最後に、当該（案）に使用された語句につき、二、三疑問を呈したい。

P. 1 の（1）、見出しに「静岡市の歴史・文化の保存（拠点）」について

この表記からすると、「歴史の保存と文化の保存」という二つの拠点をめざす、というようである。「文化の保存（拠点）」というのはまだわかる（正確にはよくわからない、妙な表現）が、「歴史の保存（拠点）」とは、一体どういうことか？おかしな表現だと思う。

P. 2 の（2）、見出しに「歴史観光のまち静岡」について

「歴史観光」とは聞き慣れない語句である。一体、どういう意味なのか。表現がおかしいのではないか。

P. 3 の（5）、見出しの中にある「郷土教育」について

「郷土教育」とは「愛郷教育」・「郷土愛を育む」との意であろうが、かつて使用された語句ながら、全文中この語のみがひどく古い用語のように思う。違和感を覚えるのはわたくしのみだろうか。

以上、成案を得る折には使用語句に一考をお願いしたい。

No.2 70歳以上 男性

・タイトル

建設計画の経緯・計画方針について

・ご意見

方針の内容は大変見事です。市民説明会を開催して下さい。

経緯・計画についての資料を明確にして下さい。

静岡市現状特質の認識（地方の商業都市である）。

将来の街の姿を明確にして挑戦する（戦略。住民を減少させない。来静者増大を計る）。

No.3 70歳以上 男性

・タイトル

構築資金・運営について

・ご意見の内容

市民・地元企業の多額の資金提供をお願いする（市民が創った誇りをもたせる。オープンした施設にプレートを張るなどのアイデア検討）。

管理・運営について市民のボランティアの力を利用する（事例：駿府ウェブ・AOI・グランシップ等ボランティア、管理面、定年退職者）。

No.4 60歳代 男性

・タイトル

基本構想案に対する意見ではありませんが、このような施設があればということで送ります。

・ご意見の内容

現在、静岡市には歴史的な資料の展示館がいくつかありますが、明治、大正、昭和の農具、漁具、林業具、生活用具などの民具や、地場産業の道具を展示した施設が見当たりません。県下を見てみると、ほぼ各市町村にそれぞれ1つ以上の資料館があり、歴史民俗資料館として市民に公開されています。静岡市としても歴史文化施設の設置を機会に、このような資料館の併設が必要であると感じています。

民具や道具には、それぞれの時代を生きた先人たちの知恵や工夫が活かされており、又、生活のため大切に扱ってきたものであり、文化財にも劣らないくらいの価値を持っていると思われます。

稲作を例にとると、一昔前までは苗作りから収穫まで数々の農具を使い、全て人の手作業に頼っていました。しかし現在はほとんどの作業が機械化され、以前の農作業の風景を見ることはできません。農具を展示あるいは直接手に触れることにより、今の子供たちに米作りの基礎を学ばせることも意味があります。又、高齢者は、それらの道具と

対面することにより自身の過去のことが思いおこされ、認知症の予防にも役立つとされています。現在、これらの民具や道具は、劣化や廃棄処分によりその数が失われつつあり、収集、保管が急がれます。

最近、趣味で各地の資料館を回り始めましたが、その際感じたことは、休日にもかかわらず比較的観覧者が少ないことです。折角、立派な施設があっても利用されないのであれば意味がありません。どの様にすれば皆さんに親しんでもらえるか、展示方法や利用方法を含めて市民の意見を参考に考えるべきでしょう。

静岡市の歴史文化施設の設置にあたり、一市民として少しでも役に立つことが出来るならばと思っています。

No.5 70歳以上 男性

・タイトル

歴史文化施設の設置場所が旧青葉小学校校舎の再利用には反対いたします。

・ご意見の内容

静岡の歴史文化施設の設置は渴望・熱望しておりますが、その目的は2つあります。

1. 静岡の大御所時代は世界文化の窓口であり、明治初期は日本の近代化の頭脳集団であった。そのことを市民に啓蒙し、誇りと自身をもった市民意識を醸成すべきと考えます。
2. 全国及び国外からの観光客の誘致の目玉として、静岡の歴史と文化を積極的に利用する。

上記のためには、国宝・重文級史料を収集・保管・展示が可能な施設の新設を望みます。